エア・ウォーター・ゾル
Web展示会を開催し開発製品を紹介

エアゾール製造と化粧品OEM／ODM事業を展開するエア・ウォーター・ゾルは、自社独自の原料やエアゾール技術を用いて開発した化粧品を一堂に紹介するWeb展示会を3月より開催している。それに先がけて自社HPもリニューアルしている。

同社は、ビューティケア領域での高付加価値なものづくりを目指し、自社のマーケティング機能と研究開発力を活かしたODM戦略を推進している。コロナ禍の状況にあってリアルな展示会への出展が難しい中、今春よりWeb展示会を実施し、自社の最新情報として発信していく。

Web展示会では、開発製品を自社オリジナルのコラーゲン原料（オーシャンコラーゲン）を高配合した「オーシャンコラーゲンコスメシリーズ」、天然オイルを高配合した「オールインワンゲル」、高い効果実感から需要が高まっている「炭酸シリーズ」、高いUVカット効果に速乾性や軽い感触を訴求した「日やけ止めシリーズ」、マスク着用の日常化に対応した「withコロナシリーズ」、SDGsやダイバーシティなどをキーワードに付加価値化を実現する「新たな取り組み」の6つのエリアに分類し、紹介している。

また、オンライン研究所見学やオンライン工場見学なども取り入れている。

日本色材工業研究所
吹田工場を閉鎖
座間工場とつくば工場に業務を集約

日本色材工業研究所は、3月23日に開催した取締役会にて、生産拠点の1つである吹田工場（大阪府吹田市幸町24―1）の閉鎖を決議した。

吹田工場（大阪）

日本色材グループはこれまで、2017年度よりスタートした「中期事業戦略ビジョン（2017―2021）」のもと、「生産能力の増強」「グローバリゼーションの加速化」を成長戦略の柱に据え、グループ一丸となり取り組んできた。

しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大し、外出機会の抑制やインバウンド需要の消滅、新生活様式の定着などにより国内外の化粧品需要が大幅に縮小している。

同社ではこのような状況下で、会社業績の早期改善に向けて経営資源の再配置と効率化を進めるべく、1971年12月の操業より50年経過し、建物の老朽化が進む吹田工場を閉鎖することを決めた。

同工場の業務については、座間工場（神奈川県座間市）とつくば工場（茨城県つくば市）に集約することとなった。

閉鎖時期は今年8月を予定し、吹田工場閉鎖の業績への影響については2021年2月期に特別損失（金額等は現在精査中）を計上するという。

私の H＆B 日記
日の記し

文字を書く機会が減ってきたことから、日記をつけはじめようと毎年思い立つようになって5、6年になろうか。mixiやFacebookなどミーハー的感覚でデジタル日記をつけはじめては1～2年ほどで放棄してきた私は、巡り巡って手書きの日記に戻ったわけである。しかし冒頭、回りくどい言い方になったのは、お察しのとおり、そして恥ずかしながら、365日完璧に日記をつけられたためしがないからである。

はじめは年初の気概とともに筆もなめらかで長文であるが、日を追うごとに散文的かつ短絡的な文章となり、いつしか週末だけ記す「週記」となる。これではダメだと気持ちを入れ替えても、記憶を辿り3日分まとめて記す始末で、もはや日記の体をなしていない。そのような日記崩壊の予兆が毎年この時期にやってくる。今年もその壁を越えられることはなかった。振り返れば、小学校の夏休みの絵日記も終盤に追い込みをかけた、仕事に行った…ともはや行動記録を書きなぐっている。だいぶハードルを下げたなと自嘲気味に次のページをめくって、それすら3日と続いていないことには唖然とした。

手書きの文字は人柄が表れるとはよく言ったものだが、デジタル化の波が押し寄せ、それを体感する機会はだいぶ減ってしまった。伝達手段が手書きから電子メール、LINEに代わり、手書きの年賀状を送り会う友人もいつしか片手で収まるようになった。進歩がない。

過去の年の日記を遡れば、その後はぐだぐだである。「今日から再開」と心を入れ替えたとされる日が散見され、そう志した日の日記には「起きた、食べた。旅行した先々で互いに絵はがきを購入し、隣にいる相手に手紙を書き合った青春時代、数日後に自宅へ届く手紙の文字を何度も繰り返し読み眺めたことをふと思い出す。（菅）

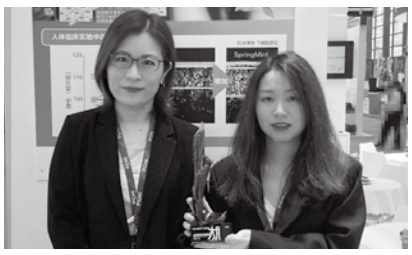
中には、力こぶのイラストばかり描いている週もあった。おそらく「今日はがんばった」というスタンプメッセージのつもりだろう。私に言いたい。もう諦めてはどうか、と。

一丸ファルコス
「PCHi2021 Fountain Award」を5年連続で受賞

一丸ファルコスは3月24日～26日の3日間、中国・深圳で開催された化粧品原料展示会「PCHi2021」において、「菲薄化」対応原料として展開する「スプリングミント（SpringMint）」が化粧品技術革新賞「PCHi 2021 Fountain Award」の活性原料・抗老化部門賞を受賞した。同社がPCHiアワードで受賞するのは、これで5年連続となり、研究開発型の原料メーカーとして海外での評価を高めている。

同社が今回受賞した「活性原料賞」は11部門に分類され、「スプリングミント」は「抗老化部門」を受賞した。今回の受賞を機に、グローバル市場にさらなる拡販をしていくという。

「スプリングミント」（表示名称＝セイヨウハッカエキス）は、オーガニックのセイヨウハッカ（ペパーミント）の葉から抽出した天然エキスで、肌老化の初期症状である「菲薄化（肌痩せ）」の改善が期待できる効果が確認され、2019年5月より新たな抗老化アプローチを実現する原料として発売を開始した。



サトウキビ由来の植物性1，3―ブチレングリコール溶液で製剤化されている。100％天然由来なので、近年のクリーンビューティやエシカル消費などのトレンドにも対応する。